

自産自消ができる国へ 79

『「点」なのか「面」なのか』

文 西辻一真

text by Kazuma Nishitsuji

私

がマイファームという会社を作ってもうすぐ10年を迎えます。

この10年間、何とか自然も人も地域も喜ぶような仕組みを導入して、耕作放棄地を解決しようとしてきました。

耕作放棄地だからこそ向いている「新たな」農業をいくつか発見して、養蜂業や養鶏業、体験農園などを開拓してきましたが、最近では耕作放棄地×養殖もいけるのではないかと思案しています。この仕事を始めた頃、ゲーグルマップで地方の耕作放棄地が多いところを当たっているとたまに真っ黒なシートで覆われたところが中山間地にありました。なんだろうと思い調べたところ、それは淡水魚の養殖であることがわかりました。金魚や鯉、最近ではナマズなんかもその対象になってきています。私は非常に有効な手段だと思っています。また採算性を調べてみると鯉や金魚は需要が高く、仕事としても継続性が得られています。これらが広まれば中山間地の農地の新たな利用方法につながるため、マイファームで取り組み

うとしたのですが、難しい点がありました。

1つ目の壁がやはり農地周りの法律関係で、農地法やそれ以外の周辺法律を突破しなければなりません。2つ目の壁がノウハウをなかなか出してもらえないということでした。養蜂の時も同様でしたが、どうしてもノウハウを教えたら真似されて生活が圧迫されるんじゃないか!と思う方がいて広まることを拒んでいます。その気持ちもわかります。が、私は市場が広がることで新たなニーズを掴んだり、多くの人に喜んでもらって「ありがとう」の声を聞いたり、よきライバルが増えることでもしかしてイノベーションが起るかもしれない、と考えています。私は「点」で伸ばすよりも「面」で伸ばすことができると思います、体験農園もそうです。積極的にノウハウを伝えていきます。体験農園の場合を例にとってみても、ノウハウをどんどん出したことで新たな農業ベンチャーが農園事業を始めたり、自治体が都市農業に力を入れた

りしてきて活性化しています。このように耕作放棄地解消のために、新たなイノベーションを起こす活動を続けています。とは言うものの、先ほどの2点の壁があつて四苦八苦する毎日です。30年後、私やマイファームが農業界のイノベーターとなっているか、デストロイヤーとなつてはいないか、考えたいと思います。ですがイノベーターとしてよい農業界を創っていきけるように頑張ります。

Profile

82年、福井県生まれ。
京都大学農学部卒。
広告会社に勤務後、07年9月にマイファームを設立。
都市部の耕作放棄地を体験農園として貸し出すビジネスを始める。
株式会社マイファームの取り組みはこちらから
公式サイト：<http://myfarm.co.jp/>
フェイスブック：<https://www.facebook.com/myfarm.kyoto>
耕作放棄地を再生させる「体験農園マイファーム」
<http://myfarmer.jp/>
耕作放棄地を耕す人を育てる「アグリイノベーション大学校」
<https://agri-innovation.jp/>

